

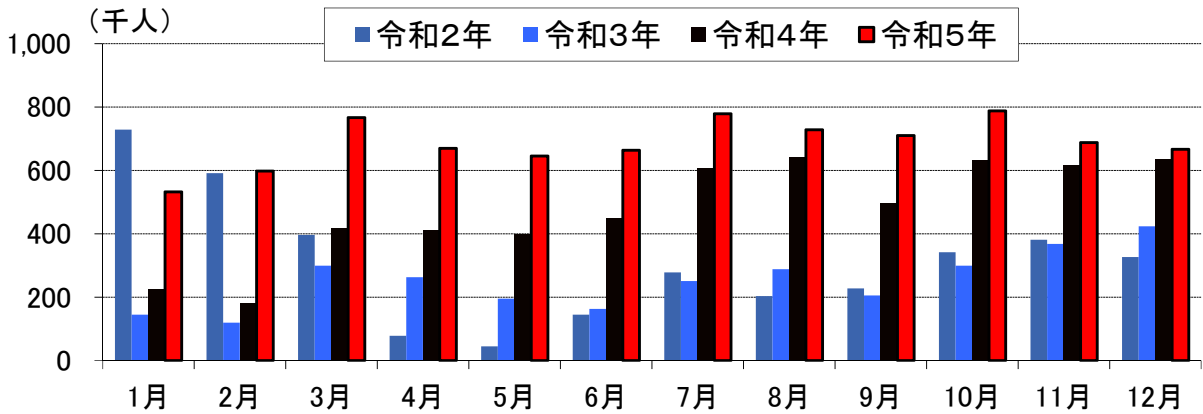
令和5年（暦年） 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
令和6年1月発表（令和6年3月に確定値に更新）

令和5年（暦年） 823万5,400人
対前年（R4）比 +253万7,600人、+44.5%
 ～暦年では過去5番目、増加数は過去2番目～
 ※令和元年比 △192万8,500人、△19.0%

入域観光客数（国内+外国）

■月別入域観光客数の推移（令和2年～令和5年）



■令和5年（暦年）入域観光客の状況（令和4年・令和元年との比較）

	(千人)												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
令和5年	532.2	597.9	766.2	669.8	645.2	663.4	778.8	728.6	710.1	788.3	688.2	666.7	8,235.4
令和4年	224.6	179.2	415.7	409.0	396.8	448.5	607.8	640.8	494.7	630.7	615.0	635.0	5,697.8
増減数	307.6	418.7	350.5	260.8	248.4	214.9	171.0	87.8	215.4	157.6	73.2	31.7	2,537.6
増減率	137.0%	233.6%	84.3%	63.8%	62.6%	47.9%	28.1%	13.7%	43.5%	25.0%	11.9%	5.0%	44.5%
令和元年	753.5	772.2	884.0	851.4	834.9	868.2	963.6	1021.2	809.3	851.3	799.2	755.1	10,163.9
増減数	-221.3	-174.3	-117.8	-181.6	-189.7	-204.8	-184.8	-292.6	-99.2	-63.0	-111.0	-88.4	-1,928.5
増減率	-29.4%	-22.6%	-13.3%	-21.3%	-22.7%	-23.6%	-19.2%	-28.7%	-12.3%	-7.4%	-13.9%	-11.7%	-19.0%

■令和5年（暦年）の概況（総括）

令和5年（暦年）の入域観光客数は823万5,400人となり、対前年比で253万7,600人増（44.5%増）と、増加数では令和4年に次いで過去2番目となった。また、これまで最多を記録した令和元年に対して81.0%の水準まで回復し、過去5番目となった。

令和5年は、全国旅行支援等の需要喚起策や修学旅行等の回復を受けて、国内観光客が令和元年と同水準まで回復したほか、外国人観光客についても、国際航空路線やクルーズ船の再開に応じて段階的に回復してきた。

令和6年については、当面の間、回復基調が維持されると見込まれるものの、今後とも円安や物価高等による影響を注視していく必要がある。

国内観光客についての動向

■令和5年（暦年）国内観光客の状況（令和4年・令和元年との比較）

（千人）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
令和5年	487.4	554.5	702.0	603.1	575.3	585.7	663.6	632.2	603.5	672.9	597.1	571.5	7,248.8
令和4年	224.6	179.2	415.7	409.0	396.8	448.5	607.8	640.7	494.7	628.0	602.9	602.2	5,650.1
増減数	262.8	375.3	286.3	194.1	178.5	137.2	55.8	-8.5	108.8	44.9	-5.8	-30.7	1,598.7
増減率	117.0%	209.4%	68.9%	47.5%	45.0%	30.6%	9.2%	-1.3%	22.0%	7.1%	-1.0%	-5.1%	28.3%
令和元年	523.7	532.1	657.4	601.1	566.5	569.8	660.8	738.3	590.6	620.8	600.1	572.7	7,233.9
増減数	-36.3	22.4	44.6	2.0	8.8	15.9	2.8	-106.1	12.9	52.1	-3.0	-1.2	14.9
増減率	-6.9%	4.2%	6.8%	0.3%	1.6%	2.8%	0.4%	-14.4%	2.2%	8.4%	-0.5%	-0.2%	0.2%

■国内観光客の概況

令和5年（暦年）は、5月8日に新型コロナが「5類感染症」に移行し、県内イベントが通常開催されたほか、全国旅行支援等の需要喚起策により、旺盛となった国内の旅行需要を取り込むことができたこと、また、修学旅行等の需要回復、FIBAバスケットボールワールドカップ沖縄開催等もあり、これまで最多であった令和元年を上回り、過去最多となった。

令和6年は、コロナ禍を経て高揚した旅行マインドが一旦落ち着くことが見込まれるものの、令和5年よりも3連休以上の連休が多くなること、デフバレーボール世界選手権大会や沖縄空手少年少女世界大会等の大型イベントの開催、複数のフライ&クルーズが予定されていること等から、堅調に推移すると見込まれる。

外国人観光客についての動向

■令和5年（暦年）外国人観光客の状況（令和4年・令和元年との比較）

（千人）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
令和5年	44.8	43.4	64.2	66.7	69.9	77.7	115.2	96.4	106.6	115.4	91.1	95.2	986.6
令和4年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	2.7	12.1	32.8	47.7
増減数	44.8	43.4	64.2	66.7	69.9	77.7	115.2	96.3	106.6	112.7	79.0	62.4	938.9
増減率	—	—	—	—	—	—	—	96300.0%	—	—	652.9%	—	1968.3%
令和元年	229.8	240.1	226.6	250.3	268.4	298.4	302.8	282.9	218.7	230.5	199.1	182.4	2,930.0
増減数	-185.0	-196.7	-162.4	-183.6	-198.5	-220.7	-187.6	-186.5	-112.1	-115.1	-108.0	-87.2	-1,943.4
増減率	-80.5%	-81.9%	-71.7%	-73.4%	-74.0%	-74.0%	-62.0%	-65.9%	-51.3%	-49.9%	-54.2%	-47.8%	-66.3%

■外国人観光客の概況

令和5年（暦年）は、令和4年10月に水際対策が大幅に緩和されて以降、航空路線やクルーズ船の再開が続いたことで、増加数・増加率ともに過去最多・最大で、過去6番目となった。

空路客については、一部航空路線の運休があるものの令和元年の約5割に回復し、海路客は令和2年以来3年ぶりの皆増となった。

令和6年は、1月に那覇－高雄（台湾）便の再開、那覇－台北便の増便があり、今後も那覇－上海便増便等が予定されていること、クルーズ船寄港スケジュールが令和5年を上回ることで、円安による効果も期待できること等から、さらなる回復が見込まれる。